

児童朝会 校長の話 12月19日

4年に1度開かれるサッカーワールドカップが昨日の夜中に決勝戦が行われ、終わりました。アルゼンチンとフランスが戦ってアルゼンチンが優勝しました。

日本の活躍も素晴らしく、世界を驚かせました。日本チームの活躍を振り返ってみましょう。まず、第1戦はドイツとでした。ドイツはワールドカップで4回優勝している強豪チームです。誰もがドイツが勝つだろうと予想していましたが、なんと日本チームは2対1でドイツを破りました。



そしてスペインと対戦しました。スペインもワールドカップで優勝経験のある強豪チームです。スペインとの戦いで日本の2点目のゴールシーンですが話題になりました。三笥選手がゴール脇で脚を伸ばしてボールをキャッチしてパスをしました。それを田中選手がゴールに押し込んで得点しました。しかし、三笥選手の蹴ったボールが線から出ていたのではないかと判定され、ビデオ判定を受けることになりました。真上から

捉えた映像を見るとボールがぎりぎり線に接していました。ゴールが認められ、スペインに勝利することができました。日本は、予選リーグでドイツとスペインに勝って、決勝トーナメントに進みました。ベスト16です。

決勝トーナメントではクロアチアと戦いました。1対1で引き分け。延長戦も戦いましたが両チーム点が入れられず引き分けです。引き分けの時はPK戦をします。PK戦というのはゴールの前にキーパーが立ってゴールされないように防ぎます。そして5人の選手が一人ずつボールを置いて順番にゴールに向かって蹴ります。多くゴールに入れた方が勝ちです。

日本チームは誰がPK戦で蹴るか決めていませんでした。

森保監督が「蹴りたい人は手を挙げて」と言いました。普段なら誰かがすぐ手を挙げますが、今回は大きなプレッシャーがかかり、5秒くらい沈黙が続いたそうです。そして



南野選手が手を挙げました。一人目、南野選手が蹴りましたが、相手のゴールキーパーに止められてしまいました。

そして三笥選手もゴールできず、吉田選手もゴールできませんでした。1対3でクロアチアに負けてしまいました。



うずくまっている南野選手をチームメイトが励ましています。

こうして日本チームは悲願のベスト8には進むことができませんでした。

実は本で行われたアルゼンチンとフランスの決勝戦も、2対2で引き分け、延長戦に1点ずつ入れて3対3で引き分け。そしてPK戦になりました。

約30年前、ブラジルとイタリアの決勝戦も引き分けでPK戦になりました。そしてイタリアはゴールを外してしまい負けてしまいました。ゴールを外したロベルト・バッジエ選手はこんな言葉を残しています。「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気をもった者だけだ」PKを外すか成功させるか、やってみ

**PKを  
外すことができるのは  
PKをける  
勇気をもった者だけだ**

なくては分かりません。挑戦したからこそ、失敗する経験をしたのです。挑戦する勇気の尊  
さを伝えています。ワールドカップを通じて、選手たちの素晴らしい勇気をたくさん見るこ  
とができました。素晴らしい日本チームだったし、たくさんの勇気を伝えてくれました。

2学期もあと1週間で終わりですね。時間を大切に、2学期のまとめをしっかりと終わ  
れるよう過ごしましょう。